

⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

【犬のしつけ方教室】

犬猫の飼育者が、動物の習性・生理やしつけ方等を習得することにより、適正な飼育方法の啓発を図り、他人に迷惑をかけず人と動物が共生できる快適な生活環境の確保を図る。また、当センターのみで飼い方相談事業を実施するだけでは、すべての神戸市民のニーズに応じることはできないため、その成果が広く市民に行き渡る仕組みづくりに取り組む。

【今年度開催の教室】

- ①老犬との暮らし方教室 ②和犬教室

【適正飼養アドバイザー会議】

令和3年度より有識者・経験者で「適正飼養アドバイザー会議」を設置し、共生センターで開催するプログラムについて協議を行い、しつけ相談の対応についても適宜アドバイスをを行う。「適正飼養アドバイザー会議」の機能は以下のとおり。

- ①共生センターのしつけ方教室・しつけ相談のプログラム構成
- ②上記プログラム実施に向けてのアドバイス
- ③各区での教室・相談に対応できる体制づくり
- ④プラットフォームの研修体制の整備

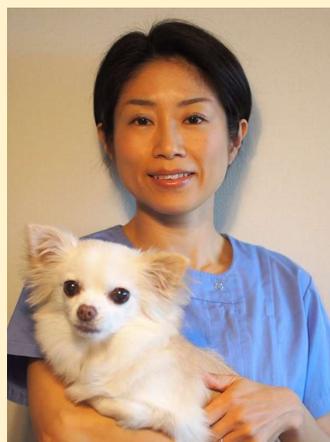
※③④については、令和4年度より取り組む予定であったが、新型コロナウイルスの影響により整備できなかったため、令和5年度に着手する。

適正飼養アドバイザーの先生方



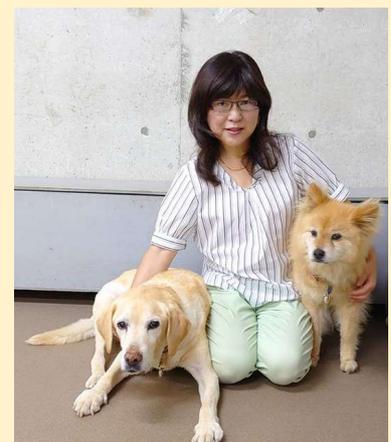
座長 村田香織先生〔獣医師〕

もみの木動物病院（神戸市）副院長
／（株）イン・クローバー・代表取締役
／公益社団法人日本動物病院協会（インストラクター養成講座委員会アドバイザー／こいぬこねこの教育アドバイザー養成講座メイン講師）
／Veterinary Medical Network 行動学コンサルタント／動物ボランティアグループ・メイブリーズ代表
／カフェ「ここっと」代表



近藤悦子先生〔獣医師〕

獣医師／「神戸いぬ・ねこ問題行動診療」代表／獣医行動診療科認定医／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター



中塚圭子先生

宮崎大学客員教授／環境人間学博士／人とペットの共生環境研究所所長／JAHA認定家庭犬しつけインストラクター／人と犬との共生教室「ドルチェカーネ・中塚」主催／JKC公認訓練士

⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

各教室の参加人数と参加犬数は以下のとおりである。

開催日	教室名	講師	参加人数 (付き添い含む)	参加犬数
令和5年 5月6日 (土)	老犬との 暮らし方教室	JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 中塚圭子先生	10	7
12月9日 (土)	和犬教室	「神戸いぬ・ねこ問題行動診療」 代表／獣医行動診療科認定医／ JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 近藤悦子先生	5	2
合計	2回実施		15人	9頭



【老犬との暮らし方教室】の様子



【和犬教室】の様子

2つの教室の開催を通して、市民のニーズにいかに応えていくかという課題に直面した。問題が解消しない飼い主や、継続して学ぶ意欲のある飼い主に対して、共生センターで可能な支援を行うだけでなく、地域の動物病院や教室等につないでフォローする体制の必要性を痛感した。こうべ動物共生プラットフォームを構築することで、地域でのフォローを可能にしていきたい。

⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

各教室のプログラム開始時に、動物管理センターより内容を踏襲した以下の資料を配布し、共生センタースタッフより「飼い主の責務」について講義を行った（10分程度）。

犬と暮らすうえで知っておく必要のある法令

◎狂犬病予防法

- ・登録と狂犬病予防注射について（狂犬病予防法で定められた「飼主の義務」です）
- 登録：犬の生涯に一回
- 狂犬病予防注射：生後90日を超えたら注射をしましょう。それ以降は毎年4月から6月の間に受けましょう。（3月下旬に（公社）神戸市獣医師会から「狂犬病予防注射のお知らせ」が郵送で届きます。）
- 鑑札と注射済票は首輪等につけておきましょう。無くした場合は（公社）神戸市獣医師会で再発行します。
- 住所変更、犬の死亡の場合等は、届出が必要になります。（公社）神戸市獣医師会に届けを出してください。

◎動物の愛護及び管理に関する法律・兵庫県動物の愛護及び管理に関する条例

- ・犬の飼い主として守るべきルール
- 放し飼いはやめましょう。散歩中に公園等でリードを放すのもやめましょう。
- ウンチは必ず持って帰りましょう。
- 鳴き声、臭いなどでまわりに迷惑をかけないようにしましょう。
- ・不妊手術をしましょう
飼えない子犬をふやさないために、必ず不妊手術（雄は去勢手術、雌は避妊手術）をして下さい。生後6か月を過ぎたら具体的に手術の日取りを考えて下さい。料金等は病院によって違います。
- ・しつけをしましょう
犬との信頼関係を築いたうえで犬に、人間社会で暮らしていくための、ルールをやさしく教えてあげましょう。しつけの基本は「しかるよりほめる」です。
- ・万一、犬が迷子になってしまったら
姿が見えなくなったらすぐに「動物管理センター（動物愛護センター）」及び「警察署の会計課」に電話して下さい。見付かった時の取り消しの電話もお忘れなく。

※迷子にさせないことが一番大事です！

※マイクロチップの装着について

- 直径2mm・長さ10mm程度のマイクロチップを首の後ろの皮下埋め込みます。これには特有の番号が記録されており、登録しておくことで機械で読み取り連絡先等が分かる仕組みです。
- ・咬傷等の事故が起きたら
最寄りの保健所（衛生監視事務所）に飼い犬事故届を提出して下さい。人を咬んだ場合狂犬病の有無について獣医師の健診を受けて下さい。

こうべ動物共生センター

各教室の報告は、次ページ以降のとおりである。

⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

【老犬との暮らし方教室】

対象：老犬とその飼い主 参加費：無料

希望者は犬を連れて参加で可能とし、老犬との暮らし方において悩みごとを共有しつつ、老犬用グッズ・介護グッズ等を体験して、生活の中で工夫できることを学ぶ。

開催日程：令和5年5月6日（土） 13:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 中塚圭子先生

参加人数：飼い主10名（付き添い含む） 犬7頭



「シニアペットと暮らすには自信をもって見守り、犬も人も仲間と楽しく過ごすことも大切です。仲間とは相談し合える利点があるので、仲間同士で愛犬を見守りましょう」と先生が飼い主さんたちに語りかけてくださった。今回は「食事」「歩行」「生活」「介護」という分野に分け、食事の方法、生活におけるサポートの工夫、介護用の犬具、寝床などについて詳しく取り上げていただいた。



「食事」については、誤嚥防止への対策について詳しく教えていただいた。手作り食であれば繊維質が消化しきれなくなるため、ブレンダーなどで繊維質をよく断ち切ってから提供する。また、下痢をしていないか観察が必要である。

「歩行」については、犬のペースに合わせて外を歩き、肉球にいろいろな刺激を与えることも大切である。

「生活」全般については、排泄が自分で出来なくなってしまったときにはおむつを使用するが、排泄後にお尻を洗うことで犬も気持ちよく過ごすことができる。

⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）



犬の肺は人間のように横に広がっているのではなく、身体に沿って縦になっているため、横に寝かせると肺が潰れて苦しくなるとのこと。身体の下にクッションなどをあてて少し斜めの姿勢にすると楽に過ごせるという方法についても伝授していただいた。



立ち上がりが困難になってきたと相談された飼い主さんに対しては、介護用犬具の使い方のアドバイスと共に、その場で試用させていただいた。犬具を上手に使用することで、大型犬でも立ち上がって歩くことが可能になる。

一頭一頭抱えている悩みや課題が異なるが、ひとつひとつ丁寧に答えていただくことで、悩みごとの解消にもつながっている。

《参加者の感想より一部抜粋》

- ・ケアの仕方等、とても参考になりました。知らなかったことたくさん教えていただきました。
- ・見送る日のことを考えてばかりではダメだと気がきました。
- ・久しぶりに喜ぶ姿、落ち着いている様子、立った様子などが見れて感動しました。嬉しかったです。ありがとうございます。
- ・「いかないで」と泣くよりは「ありがとう」と見送るという言葉が胸に刻んで日々一緒に過ごします。

これまでは、実際に介護に直面している飼い主の参加が多かったが、今年度は「将来に備えたい」という希望があり、まだ若い犬の飼い主の参加もあった。散歩や食事、排泄等飼い主がそれぞれ違った悩みを抱えており、その気持ちに寄り添いながら一頭一頭のケースについて助言をいただいた。このような老犬に対してのプログラムが少ないため、「回数を増やして欲しい」といった声がセンター開設当初より聞かれ、次年度はようやく回数を増やして実施できることとなった。今後も移動が困難な大型犬の飼い主の要望に応えられるよう、各地域での開催を目指したい。

⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

【和犬教室】

対象：生後6ヶ月齢までの和犬（和犬系の雑種犬を含む）とその飼い主 参加費：無料
「自立心旺盛」「頑固」「警戒心が強い」という性格の特性を持った柴犬等の和犬の特性について理解を深めながら、犬を飼うことの基礎知識だけでなく、日常生活の中で必要な基本的なしつけ方、接し方等を学ぶ。

開催日程：令和5年12月9日（土） 10:30～12:30

開催場所：共生センター ふれあい室・センター前広場

講師：獣医師/JAHA認定家庭犬しつけインストラクター 近藤悦子先生

参加人数：2家族（5名） 犬2頭



子犬が様々なことを経験・学習する「社会化期」と呼ばれる時期は、一般的に生後3週齢から16週齢（4ヶ月齢）と言われている。「社会化期」は、家の中だけでなく外に出て色々な人に出会ったり、散歩で他の犬とにおいを嗅ぎ合って挨拶したり、様々な刺激を受けて社会性を身に付ける大切な時期である。今回参加した犬たちはちょうど同じ月齢で誕生日も一日違いという2匹だった。



うまくおやつを使用しながら「人の手はおいしいものを与えてくれる」「人の手は怖くない」「人に会うといいことがある」と学習し、人に対する警戒心を無くしていく。

⑤ 「一緒に学ぼう！」 飼い方相談事業（犬のしつけ方教室・犬猫のしつけ相談）

屋外での散歩・遊び



外を散歩する練習。少し歩くと犬同士お互いに遊びに誘う行動も出てきた。興奮しすぎる手前で一旦休憩をさせるなど先生が見守りながらしばらくの間遊ばす。

室内での講義



犬のしつけにおいては、罰（体罰）を用いるのではなく、好ましい行動をほめてその行動が増えるように導いたり、人にとって嫌な行動（甘噛み等）はそのような行動が出た際無視する等して、その行動が減るように導くというやり方について詳しく説明していただいた。

他にもうまくご褒美を使用しながら、嫌がらずに首輪を装着する方法や、ブラッシングの仕方など教えていただき、普段の生活で上手に犬と付き合っていく術を学んだ。

《参加者の感想より一部抜粋》

- ・人間が思っている以上に犬がいやがっている場合があるため、行動を注視していかないといけないと知りました。

和犬らしい特性を持った犬が参加し、「社会化」の重要性の理解が深まったように見受けられた。小さなことと見過ごしていても、それがゆくゆくは問題行動へと発展していく可能性があるということも学ばれ、皆さん熱心に先生の話聞きながら実践されていた。

初めて犬を飼われた飼い主さんと先住犬が柴犬で2匹目も柴犬という飼い主さん、2組のご家族が参加され、一緒に参加されたお子さんもそれぞれの犬への接し方を学ぶことが出来た。引き続きフォローも行うこともお伝えした。